

湧水^など富士山イメージ

香り-1グランプリ 三島「ミロク」が大賞

「当地の香りを使った」を掛け、ミロク(三山麓までを香りで表現し製品名の由来を競う)三島市が開発した香水「ミロク」が、第1回香り-1グランプリで、ミネラルウォーター部門の大賞に選ばれた。富士山の山頂からオートの製造販売など、富士山に対する思いを形にした商品なので、外国の人にも広く愛用してもらえたらうれしい」と話した。

全国の花やハーブなど、当地の香りを生かした製品などが集う日本のイベン



大賞に輝いた香水「パルファム・フジ」を手にする古屋社長

伊豆日日新聞 H27. 1. 20 (1)

トで、プロダクト部門は10点が予選を通過。食の専門家や研究者らに一般公募の審査員を加えた1

50人以上が香りやデザイン、地域性などをチェックした。

パルファム・フジは幼少時から三島市で育つ古屋社長が「毎日眺めている美しい富士山を世界にアピールしたい」と昨年前から開発に着手。縁あって有名ブランドの香水を数多く手掛けるフランス人調香師アラン・ベル

ジュ氏に協力を依頼し、昨年春に完成した。つげ始めはオソンのフレッシュな香りで山頂を表現、時間が経つとアナの葉やスイカズラなどさわやかな香りに変化し、約2時間後には富士山麓の湧水のようなみずみずしい香りが楽しめる。同社はベルジュ氏と3、4回ほどサンプルをやりとりし、湧水らしいまろやかな香りの表現にこだわったという。

商品は市内の雑貨店やホテルなどで販売している。古屋社長は「国内外の観光客に富士山の思い出を香りで持ち帰ってもらい、荘厳な大自然の魅力を世界に広めていきたい」と語った。

三島市長表敬訪問及び取材記事①

H27. 1. 19

香り-1グランプリ ミロク(三)が大賞 香水「パルファムフジ」

建築工具開発、ミネラルウォーター製造の「ミロク」(三島市、古屋英将社長)が昨年6月に発売した香水「PARFUM FUJI」(パルファムフジ)がこのほど、「香り-1グランプリ」で大賞を受賞した。同グランプリは、全国各地のアロマや香



トロフィーと受賞品を手にするミロクの古屋英将社長=19日午後、三島市内

水、スイーツなど香りに関する製品のコンテストで、今回が第1回。昨年11月に大分県と磐田市で第1次審査があり、今年11日に東京で最終審査が行われた。3部門あり、パルファムフジは香水や小物などのプロダクト部門で最高賞に輝いた。

パルファムフジは富士山の世界遺産登録を記念して開発した。フランス人調香師アラン・ベルジュさんが調香売している。

古屋社長は「コンセプト、デザイン、香りなどを総合的に評価してもらった。富士山周辺を訪れた観光客に富士山の思い出として持ち帰ってほしい」と話した。香水は三島市内のホテルやネットで販売している。

静岡新聞(21)地域東 H27.1.20

富士山表現した香水が大賞

ルウォーター製造・販売「ミロク」が開発した香水「PARFUM FUJI」(パルファム・フジ)が、香り-1グランプリのフロダクト部門で大賞を受賞し、古屋英将社長(41)が19日、豊岡武土市長に報告した。

きっかけは富士山の世界文化遺産登録で、古屋社長が「富士山への思いを形にしたい」と香水開発を企画。著名なフランス人調香師と共同開発し昨年4月の完成にきつめた。

富士山頂から山麓までを香りで表現。付け始めの「山頂のオソンの香り」から時間と

香り-1グランプリ 三島の会社開発

ともに、「生息する多くの香りを使った製品や様々な植物の香り」「山、スイーツ、土産品を全羅にわき出る湧水の香」国から集めて評価を競い「へ」と変化していき、いっしょに日本のイベント。プロダクト部門に

昨年6月、8月、2月は予選を通過した10商品500円(税別)で販売がエントリした。最終審査は今年11日に東京で行われた。

グランプリは、「幻」香水の香りについで「ミントのクッキー」で、豊岡市長は「第一「カモミールのハーブ」印象は爽やかだね」と「ティ」温州みかん 気に入った様子だった。精油など、当地産だ。【長谷川隆】



トロフィーを手にする古屋社長

毎日新聞(13)総合 H27. 1. 20



H27. 1. 19

富士山イメージ、香水が大賞



大賞のトロフィーと「PARFUM FUJII」を手にする古屋社長(三島市)

全国の各当地の香りをいかにした製品を集めた「第1回香り1グランプリ」(香りマーケティング協会主催)で、ミネラルウォーター製造販売ミロク(三島市)の香水「PARFUM FUJII」がプロダクト部門大賞を受賞した。富士山をイメージして作った香水といい、古屋英将社長は「富士山を訪れる内外の観光客に思い出として持ち帰ってほしい」と話している。

11日に東京で開かれたグランプリファイナルで、決勝に進んだ41点の中から、アロマ、スイーツ、プロダクトの各部門で大賞が決まった。

三島の企業「観光客の思い出に」

「FUJII」は、富士山が世界文化遺産に登録された2013年6月ごろからミロクの新規事業として開発が始まった。カルティエや資生堂などの香水も手がけるフランスの世界的な調香師アラン・ベルジュ氏に依頼。富士山をイメージし、その木々や草花、空気、水などの香りを盛り込んだ香水を開発してもらった。

古屋社長によると、FUJIIはつけたばかりは富士山頂のオゾンのフレッシュな香りがし、次に針葉樹やブナの葉の香りになり、最後は湧水をイメージしたやわ甘い香りになっていくという。富士山の世界文化遺産登録1周年の昨年6月22日に発売し、昨年末までに約2千本が売れた。今後は知名度を上げ、3年後には月1万本の販売を目指すという。

FUJIIは男女兼用で、スプレータイプ8ミリリットル入り2500円(税別)。三島市内のホテルや観光施設などで発売中だ。またホームページ(<http://www.parfumfujii.jp/>)からも購入できる。問い合わせはミロク(0555・9884・03369)。(長尾大生)

香り—1GP 大賞



トロフィーとパルファム・フジを手にする喜ぶ古屋社長＝松本貴裕撮影

時間で変化 富士の香水

山頂▽森林▽湧水

三島市のミネラルウォーター製造販売会社「ミロク」の香水「PARFUM FUJII」が、初開催された「香り1グランプリ」のプロダクト部門で今月11日、大賞に輝いた。富士山の森林や湧水をモチーフに開発された商品で、ミロクの高屋英将社長は「初開催なので、大賞を狙っていた。うれしい」と喜んでいる。

パルファム・フジは、富士山の世界文化遺産登録1周年に合わせ、ミロクが

昨年6月に発売した。国内外の有名ブランド香水を手掛けるフランス人調香師との共同開発で、時間によって「山頂の香り」から「針葉樹やブナの葉の香り」へ、さらには「湧水の香り」へと変化する仕上がりだ。

三島市は、ふさと納税の謝礼品リストにパルファム・フジを入れている。19日には古屋社長が市役所を訪れ、豊岡武土市長に大賞受賞を報告。古屋社長は富士山の香りをお土産に持ち帰ってほしいという気持ちで開発した香水。デザインも富士山にこだわっている」と語った。

香り1グランプリは、全国各地の花や果物、特産物など「当地の香り」を生かした製品を集めたコンテストで、「香りマーケティング協会」(東京都)が開催した。プロダクト部門には16品の応募があり、書類審査で10品に絞った上で3回の審査があった。同協会は大賞の選考理由を「香りと富士山のイメージが合っているのが評価された」と説明している。

パルファム・フジは、三島市内のホテルや土産物店などで販売中。8ミリ入り2500円(税別)。問い合わせはミロク(0120・223・841)。